



校長室の窓

令和7年7月18日

学校だより第4号より

4月に新学期が始まってから、あっという間に4か月が経ちました。この間、子供たちは元気に、落ち着いて学校生活を送ることができました。これは、日頃から子供たちの成長をあたたく見守ってくださっている地域や保護者の皆様のおかげです。

本校の「子供を真ん中においた教育活動の展開」というスローガンは、学校が家庭や地域と連携しながら、社会全体で子供を育てていくという思いを込めたものです。地域・保護者の皆様が、行事のたびに学校へ足を運んでくださったり、体験活動や見守り活動にご協力くださったり、日々の暮らしの中で子供たちに優しく声を掛けてくださることが、子供たちの心の支えになっています。そして、それが子供たちに「心理的安全」をもたらし、安心してのびのびと学び、成長できる環境づくりにつながっています。

現在、教育界でも「ウェルビーイング (Well-being)」という考え方が、これからの教育のキーワードとして注目されています。これは単に「健康」「幸せ」ということにとどまらず、心も体も健やかで、安心して過ごせている状態、自分らしく生きられている状態を意味しています。教育においても、学力の向上だけでなく、子供一人ひとりが自己肯定感をもち、周囲と良い関係を築きながら、安心して毎日を送ることが重要視されてきています。

月立小の子供たちは、多くの笑顔とともに、仲間や支えてくださる地域の皆様と関わりながら、日々成長を重ねています。運動会では全校が心を一つにして取り組み、野外活動や校外学習では、学校の外でも積極的に人と関わり、自分の思いや考えを表現しながら、堂々と活動する姿が印象的でした。そうした一人ひとりの姿は、まさに「ウェルビーイング」の実現を感じさせるものだったと、私はうれしく思っています。

月立小学校は、これからも「子供を真ん中に」据え、地域の皆様とのつながりを大切にしながら、一人一人の子供が自分らしく、安心して、笑顔で過ごせる学校づくりを進めてまいります。引き続き、皆さまのあたたかいご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。